

平成25年度実施（24年度採択）中央区協働提案事業評価結果報告

この報告は、中央区協働事業提案及び協働事業実施要綱第13条第2項に基づき、中央区協働推進会議から中央区長に報告するものである。

1 評価の対象とした事業

(1) “楽しみ”ながら“しっかり”学べる防災プログラム イザ！カエルキャラバン！

協働団体：特定非営利活動法人 プラス・アーツ

区担当部局：総務部防災課

(2) 「良書読み合い・語る会」読解力・表現力向上委員会

協働団体：特定非営利活動法人 国際朗読ことば協会

区担当部局：教育委員会事務局 図書文化財課

2 評価結果

別紙「中央区協働提案事業評価結果報告書」のとおり

3 評価経過

3月18日 中央区協働推進会議による実施報告会

3月24日 中央区協働推進会議による事業評価

4 評価方法

協働団体及び区担当部局から提出された実施報告書及び実施報告会を踏まえ、下記評価基準に基づき、全委員協議のうえ共通認識のもと評価した。

(評価基準)

(1) 事業の成果に関する評価

事業目的の達成度、事業実施における効率性・効果、受益者の満足度

(2) 協働の取り組みに関する評価

団体及び区の役割分担、相互理解・パートナーシップ

(3) 総合評価

事業継続の必要性

中央区協働提案事業評価結果報告書

事業名	“楽しみ”ながら“しっかり”学べる防災プログラム イザ！カエルキャラバン！		
実施団体	特定非営利活動法人 プラス・アーツ		
担当課	総務部防災課		
目的	<p>① マンションにおける防災訓練を活性化する。 住民は参加するだけでなく、できるかぎり運営側にも関わってもらう。体験を通して開催ノウハウを覚え、次年度以降は地域の方々自らで実施できるようにする。</p> <p>② 参加者（マンション住民および近隣住民）の防災意識の向上を図るとともに、将来的に近隣住民を含めた地域の方同士がつながるためのきっかけとなるイベントとする。</p>		
事業の概要	マンションの防災訓練の活性化を図るとともに、マンションでのコミュニティ形成と組織づくりの契機となる居住者主体の新たなマンション向け防災訓練を実施する。		
実績	平成26年2月23日（日）訓練実施 参加者：188名（大人118名・子ども70名）	事業費	1,052,205円
評価	A：高く評価できる B：評価できる C：どちらかという評価できる D：あまり評価できない		
1 事業の成果に関する評価		推進会議評価	
事業の目的は達成できたか		A	
<p>前年度の防災訓練と比較し大幅に参加者（前年度：参加者115名）が増加したことや実施するマンションの実情に合ったプログラムに調整したことなど、マンションにおける防災訓練の一つのモデルをつくることのできた。特に、188名参加といった想定を上回る実績をあげたことは防災に関する知識や意識を高める効果をもたらした。また、住民自身が運営スタッフを務め主体性を発揮できたことで、コミュニティ意識の醸成に大きく寄与し、事業目的を達成したものと評価できる。</p> <p>ただし、防災意識が以前と比較してどの程度向上したかは客観的に明らかではなく、この点の検証方法が次年度の課題である。</p>			
単独で実施するより効果的・効率的な事業の実施ができたか		A	
<p>中央区および佃地区の特性、当該マンションの特徴や実情を勘案しながら防災訓練のプログラムづくりが行われたことは、事業効果という視点からも評価できる。また、区と団体の役割を明確に、それぞれが役割を果たしながら相互に協働したことで、参加者の満足度が高めることができ、事業目的の達成に結びついた。これは団体からのノウハウの提供がなければ実現できなかった効果であり、協働の成果は十分にあったものと考えられる。</p>			
受益者の満足度はどうであったか		B	
<p>訓練実施後のアンケートでは、マンション住民の運営者、参加者ともに満足度が高かったことが窺えた。参加体験型のプログラムが数多く盛り込まれ、大人も子どもも楽しみながら防災知識を習得できたことが察せられる。</p>			

2 協働の取り組みに関する評価	推進会議評価
団体と区との役割分担はうまくできたか	A
<p>マンション側住民及び実施団体、中央区の三者で打ち合わせを重ねたうえに、住民への事前研修も行ったことが、各々の役割を明確にし、それぞれの強みを訓練当日に十分に発揮できたことにつながった。三者のいずれもが負担感を感じることなく参加していたという点で、役割分担はうまくいったといえる。</p>	
協働の推進につながったか (相互理解・パートナーシップは深まったか)	B
<p>NPO側が有する専門性や経験が本区との協働によって、より現場のニーズに合ったものになり、パートナーシップも深まったと評価できる。実施団体側から特に高い評価を得るとともに、マンション防災対策を推進する区としても、効果の高い新たな防災の取組みを展開できた成果は大きい。本事業は個別のマンションを中心とするものであったが、今後は、マンション以外の戸建や雑居ビル等を含め、防災意識を高める幅広い活動に向けて、いかなる協働が可能なのかを模索してほしい。</p>	
総合評価コメント	
<p> 継続すべきである 一部修正を要するが継続すべきである 再検討を要する </p>	
<p>協働事業として、他のマンションへの展開が強く期待されることから、今回の事例をモデルとして区内に認知を広げていくことが求められる。また、マンションのみでなく地域との連携の面においても工夫を重ねてほしい。上記の点を考慮して、対象地区の選定も含めて是非とも継続してほしい。</p>	

中央区協働提案事業評価結果報告書

事業名	「良書読み合い・語る会」読解力・表現力向上委員会		
実施団体	特定非営利活動法人 国際朗読ことば協会		
担当課	教育委員会事務局 図書文化財課		
目的	<p>子どもたちの読書啓発活動の援助。 「朗読」は、子どもたちが言葉を学び、読書を通して感性を磨き、表現力・創造力を高め、人生をより豊かに生きる力を身に付けていくうえで、大きな役割を果たすものである。すべての子どもたちが、自主的に朗読活動ができるよう、この事業を通じて朗読に取り組むさまざまなヒントを子どもたちに提供し、ひいては、子どもたちの「読解力・表現力」の向上を目指す。</p>		
事業の概要	<p>朗読を通して子どもたちに本を読むことの楽しさや本の大切さを感じてもらおうとともに、子どもたちの「読解力・表現力」を高めるため、参加体験型の朗読講座を実施する。</p>		
実績	<p>平成25年7月27日(土)(ことば遊び・早口ことば) 参加者:41名 8月24日(土)(グループごとに朗読発表会)参加者:36名</p>	事業費	538,180円
評価	A: 高く評価できる B: 評価できる C: どちらかというと評価できる D: あまり評価できない		
1 事業の成果に関する評価	推進会議評価		
事業の目的は達成できたか	A		
<p>子どもたちに読書の楽しさや朗読に取り組むヒントの提供が、自発的な学びや朗読活動につながったことは、事業目的の達成を意味するものと思われる。特に、基礎・基本を身につける時期の小学生に対して朗読という方法によって本の楽しさを知らせようという事業は、文化的にも大きな意義が認められる。実施回数の点でもう少し指導の機会があればなお良かったといえる。</p>			
単独で実施するより効果的・効率的な事業の実施ができたか	A		
<p>専門家集団の有する技術が、行政との協働によって学校へのアプローチが可能になったという点で、協働の効果は十分にあったといえる。また区(図書館)側のスタッフにとっても刺激や学びの面も見られ、協働の効果は十分感じられる。朗読に関する質の高い指導は、区では直接実施・展開できない事業である。</p>			
受益者の満足度はどうであったか	B		
<p>事業実施後の保護者向けアンケートでは「子どもが積極的に読書や朗読に取り組むようになった」という意見が多かったものの、2回の実施では効果の定着の確認が難しいと考えられている面も見受けられた。全般的に参加者には高い満足が得られているものの、指導中に同一会場内で他の班の声が交錯するなど、会場設定上の改善と工夫が必要である。</p>			

2 協働の取り組みに関する評価	推進会議評価
団体と区との役割分担はうまくできたか	B
<p>当初の参加者50名という目標に対して41名という参加であったことは、実施時期の点とともに、区民周知における広報や呼びかけに戦略上の課題があるものと考えられる。今回の役割分担に加え、NPOの側が今以上に運営面全体に関与し、主体性を発揮してよいものとする。</p>	
協働の推進につながったか (相互理解・パートナーシップは深まったか)	B
<p>協働の当事者においては、相互に効果とメリットがあったことが報告されているものの、NPOと行政のパートナーシップの深まりという点ではもう少し内容面での交流を重ねることが望まれる。区側からも団体に積極的に技術共有の働きかけを行うことで相互の理解がさらに深まるであろう。自治体が謙虚にプロの活動に学び、取り入れようとしている姿勢は評価でき、今後は図書館職員がこうした技能を活用して自主的に展開できるようなプログラムづくりが望まれる。</p>	
総合評価コメント	
<p> 継続すべきである 一部修正を要するが継続すべきである 再検討を要する </p>	
<p>今回の実施は夏休み期間の2回のみとなっているが、興味を示した子どもがさらに高度な学びを継続できるような取組みが期待されるとともに、都内あるいは近隣在住のインストラクターを活用して経費を節減しながら開催回数を増加させることや、参加者から参加料徴収(テキスト作成経費程度)など、実施回数を増加させることを検討してほしい。開催回数の増加という要望に向けて、指摘する課題を解決して、是非とも充実した事業を実施されることを希望する。</p>	